

東南アジアの旅から帰って

この記事は去る10月8日から10月23日までの15日間、東北議長会主催の第4回東南アジア行政視察旅行に本市から参加した団長の渡部綱次氏をはじめ佐藤民二郎、釜谷義雄、菅原一雄、小坂元治、太田部武蔵の6氏らが、6カ国の視察旅行を無事終え、このほど視察報告を兼ねて座談会を行ないましたもの取材したものです。

座談会は、思い出も新たに、延々3時間にもわたりましたが、紙面の都合上、一部割愛になりましたことをお詫びいたします。

座談会

出席者

議長	渡部綱次氏
副議長	柳館邦男氏
議員	佐藤民二郎氏
"	釜谷義雄氏
"	菅原一雄氏
"	小坂元治氏
議会事務局長	小笠原三郎氏
北鹿新聞速記	八代純一郎氏

悪感情がうすれ

つつあるマニラ

- (A) まず、マニラから話を進めよう。
- (C) 私がマニラで感じたことは、表通りには立派な建物が並んでいるが裏へまわると非常に貧弱な建物に住民が入っている。あれを見ると貧富の差が非常に大きいということを感じましたね。
- (A) それはマニラだけでなく、今回見てきた東南アジア全体について言えるんじゃないか。
- (B) とくに不愉快に感じたことは、サンチャゴにあった戦争記念碑なんだがその記念碑は、「当時600人のフィリッピン人が日本軍の残虐行為にあつて、ある者は窒息死させられ、ある者は鉄の棒でなぐり殺された」と書いてあったことだ。
- (C) 日本軍が600人の現地人を殺したという所もあった。
- (B) それを我々が見たんですが実に複雑な気持ちでしたね。
- (D) 1人の老人と話合ったがその中で「私は日本軍の捕虜になつてずい分苦労したが、今は戦争も終わったことだし、それに今の日本は文化的にも経済的にもアジアの最高であり、現在は日本に対して悪感情はもっていない」といっていましたし、一般市民はそれほど日本に対する悪感情を持っていないと、私は感じました。

ゆきとどいた住宅政策、シンガポール

- (C) この国は、日本の淡路島くらいの小さな島なんですが国家は住宅政策に非常に力を入れているんですね。とくに、驚いたことは電気洗たく機、扇風機、冷蔵

庫などを国家がただみたいな価格で市民に貸しているんです。

- (A) あれは確かに英国の影響だと思えますね。しかし、住宅政策なんかは確かに学ぶべき点が多かった。
- (C) ただ、シンガポールで「二葉亭四迷」が死んだということを初めて聞いてびっくりしました。
- (B) あの墓を見たときだけは、外国へ来ているという気がしなかった。

美男・美女の国・マレーシア

- (C) 今回見てきた東南アジアの中でマレーシアが一番すべてにわたって意欲に富んでいるという印象を受けましたね。
- (A) そしてこの国は、すべての点において日本人と一番近いんじゃないか。おもしろいことに、例のボロボロした南京米ですが、日本人の農業指導者が向うへ行って内地米みたいなねばっこい米を作ったところが誰れも食べる者がいないそうです。彼らは手でつかんで食べるもんだからボロボロのメシの方が食いやす

いだろう。

- (B) この国では、年間30万トンの米が不足しているらしい。日本では農業指導のため5,000万ドル出しているんですね。だから非常に高率の援助をしていることになります。
- (A) おもしろいことに、同じ場所で今植えている田んぼもあれば、盛んに刈り取っているところもあるんです。
- (B) シンガポールからクアラルンプールに行くとき見た、あの整地されたように見えたのは何んだらう。
- (A) ゴム林だらう。
- (B) ジェット機で15分もとんでもまだ続いているんですからね。
- (B) それに女性がいいですね(笑)とにかく上を向いて歩いてますよ。堂々たるもんですね。あれから見ると日本の女性は「モヤシ」？みたいなもんだ。とにかく、野性美に溢れている感じです。日本の女性は養われた美ですよ。
- (A) 日本の女性は人工美だが、向うの女性は生れながらにして美を備えている。顔から姿から非常に柔和ですよ。(次Pにつづく)

